

⑮

限られた時間

やりたいことには、必ず挑戦する

「もしも、あなたの命があと1年なら…」。いったい、あなたは何をするのでしょうか。これは、「鉄腕アトム」などで知られる漫画家、手塚治虫さんの問いかけです。高校生の時、この言葉に出会いました。それ以来、「人生には限られた時間しかない。その時間をどう使うのかを考えよう」と意識するようになりました。「お笑い芸人になりたい」「小学校の先生になりたい」「大学の先生になりたい」。そんな「やってみたい」と思ったことには必ず挑戦するようにしています。



限られているのは、生命の時間だけではなく、親子で一緒に過ごせる時間も限られていたのです。

振り返れば「もっと一緒に過ごせばよかった」「もっといろいろなことができたかもしれない」と後悔することだらけ。しかし、過ぎた時間を取り戻すことはできません。

私自身、子どもの頃には、おじいちゃん、おばあちゃんにたくさんかわいがってもらいました。今



として生きていくことになります。そう考えると、今回の教育実習で帰ってきた1カ月間は、息子と一緒に生活する最後の機会なのかもしれません。

「大切な、大切な1カ月間」

息子と食事をしたり、沖縄での生活や教育実習の話を聞いたり、他愛のない話をしたり、私が元教師ということもあって教育実習の相談を受けたり…。特別なことをするわけではありません。ただ、貴重な時間を無題にしないようにテレビを見ることも、スマートフォンを触ることもせず、一つ一つの関わりを大切にしました。「もっともっと話をしたい、たくさん関わりたい」と思っていましたが1カ月間はあっという間…、息子は沖縄へ帰っていきました。

息子を送り出した後、ふと高校生の頃に出会った、あの言葉を思い出しました。

「もしも、あなたの命があと1年なら…」

になって思えば、祖父母が孫をかわいがるのは、子育てを終えたからこそ感じる特別な愛情なのかもしれません。もしかすると「育児でできなかったことを今度は孫に」という気持ちもあったのかもしれません。

高校生の時に出会った言葉を50歳になった今、今度は「人生」だけでなく、「子育て」という形で改めて実感しています。考えてみれば、人生の中で出会う人と関わる時間も決して無限ではありません。だからこそ、これからも一つ一つの時間、一つ一つの出会いを大切にしていきたい。そう思った1カ月間でした。

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
©京都新聞社 無断複製・転載を禁じます